

令和元年5月23日

(公財) 北海道サッカー協会 各位

北海道レフェリーアカデミー 第4回 事業報告

報告者：牧田 隆史(空知)

〈日 時〉 令和元年5月18日(土)、5月19日(日)

〈場 所〉 旭川市東光スポーツ公園球技場、旭川市神楽公民館

〈参加者〉 インストラクター：今川 一輔 氏、岡田 渉 氏、古曾部 統太郎 氏

審判員：小松 祐也、高橋 海星、田口 平蔵、牧田 隆史

オブザーバー：工藤 圭祐 氏(2級審判員)、秦 洋輔 氏(2級審判員)

菊池 広也 氏(3級審判員)

5月18日

8:30 集合：旭川市東光スポーツ公園球技場

10:00 試合実践① 星槎道都大学 vs 小樽商科大学 (A1 牧田 隆史) 担当：古曾部 INS

副審として試合を見て思ったこと

選手のために全力を尽くしていても、どうしても見ることができなかったということがあったときには、正直にそう選手に伝えることも、選手から任せてもらえるようになるためには必要なことであると感じた。

試合実践② 北海学園大学 vs 室蘭工業大学 (R 小松 祐也) 担当：今川 INS

自己分析

予測とアドバンテージの正しい適用を意識して試合に臨んだ。

判定では大きなミスがなかったが、選手に納得してもらえないシーンが多々あったため、対戦チームのフィジカルレベルに差がある時のコンタクトの強さやチャレンジ方法をしっかりと整理したい。

INS分析

前半にできていた、予測して早めに動き出すことが後半にできなくなっていた。出し手のキックモーションや受け手の動きを見て動き出した方が良い。仮にボールが来なくてもステップワークを使い次のポジションへ移れば良い。



13:00 試合実践③ 釧路公立大学 vs 北海道大学 (R 田口 平蔵) 担当：今川 INS

自己分析

判定については、一試合通して的確で一貫した判定をすることができた。

アドバンテージを積極的に適用することもでき、中にはそのまま得点につながるシーンもあった。また、フリーキックのマネジメントや負傷者への対応も素早く行うことができた。ただ、軽微な反則であったが、反則を繰り返し行う選手に対して注意するなどのマネジメントが必要だったと考える。

INS 分析

判定については、差異を生じることなく一貫している的確であった。

選手が負傷交代となった場面において、反則を犯した選手は、軽微な反則を繰り返していた選手であったため、繰り返しの違反による警告も考慮する必要があった。

ポジショニングについては、特にペナルティーエリア付近での争点を監視するために、もう 5m 近くことでリスクマネジメントとファウルマネジメントを素早くできるため、改善が必要である。

試合実践④ 北海道大学医学部 vs 札幌大学 (R 高橋 海星) 担当：岡田 INS

自己分析

試合を通して判定は選手に受け入れてもらうことができた。しかし、イエローカードを出す際に程度の判断が試合中に見たものとビデオで撮った映像を比べると見え方に差があった。

近くで判定する事は大事だが、近すぎるとどこから走ってきたのかが分からずスピードがあるかどうかを正しく見るができないので、判定するときには適切な角度と距離が大事であると思った。

ポジショニングでは角度を意識し過ぎて対角線式審判法の幅が狭くなってしまい、選手の邪魔になっていたの、ボールを持っている選手や受け手の動き、副審を挟んだ位置を意識して幅を持ってポジションを取る必要を感じた。

INS 分析

警告を出すシーンでは毅然とした態度で対応していたのでよかったが、程度の判断が正しく見る事ができていないように感じた。

スローインの再開時に札大の選手が相手競技者を押さえ動きを制限していたシーンが多くあり、その意図を試合の序盤に感じて欲しい。

ペナルティーキックとペナルティーマークからのキックの時には、それぞれ監視するものが異なるため、ポジションを変えて監視する必要がある。

17:00 移動・夕食

18:00 フィジカル講義 担当：岡田 INS 「スピード・加速について」

速く走るためにはどのようなポイントがあるかを、陸上短距離種目の選手の動きの分析をもとに学んだ。また、大きく4つあるポイント(大きな力・筋収縮スピード・適切な方向・最適な可動域)を、それぞれどのように鍛えていくか、トレーニングの例を学んだ。



19:10 Tutoring 担当：古曾部 INS 「マネジメントとコントロール」

2つのグループに分かれ、試合において、「マネジメント」と「コントロール」として何を行うのかを個人で考え、グループでまとめ、それぞれのグループで発表をした。

その後、「マネジメント」と「コントロール」の定義をそれぞれ考え、グループで発表した。

古曾部 INS より、「マネジメント」と「コントロール」には相互作用があり、「コントロール」をしないでいいように「マネジメント」を行い、「マネジメント」が良ければ「コントロール」はいらないのではないかという考えを聞き、「マネジメント」と「コントロール」の意義を改めて理解することができた。また、「コントロール」の際の立ち振る舞いや表情はさらに意識していくべきだと感じた。

20:20 諸連絡・解散

5月19日

8:30 集合：旭川市東光スポーツ公園球技場

10:00 試合実践⑤ 星槎道都大学 vs 北海道大学 (A2 田口 平蔵、4th 小松 祐也)

担当：古曾部 INS

13:00 試合実践⑥ 北海学園大学 vs 札幌大学

(R 牧田 隆史、A1 高橋 海星、A2 小松 祐也、4th 田口 平蔵) 担当：岡田 INS)

自己分析

試合を通じて一貫した判定をすることができなかった。明らかなファウルについては間違いなく判定することができたと思うが、程度、選手の目的や状況まで考えて判定することができず、選手の不満につながってしまったと思う。

また、交代で退いた選手がボトルを蹴ったシーンがあり、そのシーンを目視することができなかった。さらに、そのあとに他の審判員に確認しようともせずそのまま進めてしまった。やはり、何か問題が起きたのに、それを自分で確認しないまま進めてしまうのは非常に良くないことであり、正しい判定をしていくためには、自ら見に行くことと確認することを怠ってはいけないと感じた。

INS 分析

試合のマネジメントというのは、試合が始まる前から始まっている。周りからどう思われるか考え、言動に注意を払うべき。

何のために4人の審判員で試合を行っているか、もっと協力しあうことができるのではないかと。4人で試合の全体を監視できるよう、試合前の打合せから改善する必要がある。今回の失敗を繰り返さないよう、何が良く なかったのか、また、その原因を探っていくべき。

15:30 試合の振り返り

16:00 諸連絡・解散

